

【N H K 高松放送局長賞】

「偽りの言葉」

丸亀市立飯山中学校 三年 三谷柚音

「いじり」と「いじめ」のちがいは何なのか、という質問に多くの人は「いじり」は仲の良い子どうしのコミュニケーションの一環で、「いじめ」は相手を傷つけたり、苦しめたりするものと答えるだろう。だが、本当にそうなのだろうか。

私が小学三年生の時、仲の良い友達がいた。その子とは毎日一緒に帰っていた。ある日、その子ともう一人の友達と帰っているとゲームをしながら帰ろうという話になった。そこで、じやんけんに負けた一人が勝った人の命令を一つ聞くという王様ゲームのような遊びをすることになった。その日、王様ゲームをして楽しく帰ることができた。次の日もその次の日も王様ゲームをした。楽しかったが、だんだんと私は「いじられ役」になつていった。私は、嫌なことがあっても基本笑顔でいる性格なので、だんだんと命令の内容はエスカレートしていった。ゲーム中私を無視したり、私がじやんけんに負けていないのに命令をしてきたりするようになつた。最初は楽しかったのにだんだんと心が苦しくなつていった。小さい頃から仲の良かつたその子が全く知らない悪魔の存在になつていた。

「怖い」「もう一緒に帰りたくない」

だが、ゲームをしている時以外は普通に過ごさせていたので、「自分はいじめられていない。ただいじられているだけだ。」と自分を安心させていた。そんなある日、また王様ゲームをしていると王様になつたその子が、

「これ持つて、鬼ごっこで鬼になつて。」

と言つて二人分のランドセルを私に預けてきた。これは王様ゲーム関

係ない。ただのいじめだと思った。その後、自分と二人分のランドセルを背負って鬼になつた私は二人に追いつけることなく、つまづいて転んでしまつた。

「足が痛い」「もう体が動かない」

私はその場で泣いてしまつた。その後、ランドセルを二人に返して三人で無言で帰つていた。途中、その子が私に楽しくしゃべりかけてきたが、私はその子を無視した。何度も無視するうちにその子が「ごめん。ごめんだから話してよ。」その子は今にも泣きそうだった。今まで私にひどいことをたくさんしておいて、自分が嫌われたら悲しいんだ。この子は私をただ楽しくていじつていただけとしか考えていないのかな。だが、何度も謝られるうちに自然と仲直りをして、それ以来いじめは起きなかつた。この子はもうこのことを覚えてはいないだろう。だが、被害者の傷は一生消えない。私の小学三年生の記憶は全部このことで埋まつている。当時好きだつた物や楽しかつたこともすべてこの記憶によつて消されていた。

「いじり」と「いじめ」は違うもの。本当にそうなのだろうか。「あの子が嫌いだからいじめよう」や「腹が立つからいじめよう」という理由も多くある。だが、「この子は、笑つて許してくれるだろう」や「この子はいじられ役だから」という理由で「いじり」から「いじめ」に変わることも少なくないと思う。つまり、「いじり」と「いじめ」は言葉がちがうだけで意味はほぼ同じなのだ。これを私は「偽りの言葉」なのだと思う。加害者が言い分けをする時に使うためだけの言葉。

またこんなニュースを見たことがある。中学三年生の男子生徒が部活内で無視されるなどの明らかないじめを受けていた。だが、教師が「いじり」だと思い、対応しなかつたことでいじめがエスカレートし、その男子生徒は自殺した。この話を聞くと「教師はなぜ気づかなかつたんだ」と多くの人が思うだろう。だが、いじめられている光景はお

そらくみんな楽しそうに笑っていて、いじられているようにしか見えなかつたのだと思う。傍観者に被害者の気持ちなんて分かるはずもない。自分がその子の立場になつてようやく、その子の辛さが分かるのだ。私の帰り道のいじめも周りの大から見れば、楽しくおしゃべりをしながら帰っている小学生だろう。だが、現実はとても残酷で醜い世界だった。

「いじり」と「いじめ」。どちらも言葉が違う。だが、意味はほとんど同じなのだ。加害者が悪事を偽るための言葉。あるいは、傍観者が自分を納得させるために使う言葉。こんな「偽りの言葉」は、これらも人を傷つけたり、苦しめたりするだろう。そんな世の中で私達ができるとは何だろうと考えた時に、「いじり」で終わらせないことだと思う。いじられて笑っている人を見て、あれは「いじめ」じゃなくて「いじり」だ。と簡単に考えて「偽りの言葉」に騙されるのではなく、一回自分が相手の立場で考えてみて「本当にそうなのか?」と向き合うことが大切だと思う。今、この世界には、戦争やジェンダー問題などの様々な課題がある中で、「いじめ」をなくすことは、何十万人もの人の命を助ける一つの希望になると思う。